キズナの森づくりワークショップ通信

in 刈谷田川防災公園

vol.1

平成16年7月の水害で決壊した刈谷田川の復旧工事によって長岡市中之島地区および見附市今町地区にまたがる新たな土地（約3ha）が発生します。今まで地域の皆さんと協力して、この土地の利活用方法を検討し、昨年度に大まかな方針をまとめたところです。

新潟県
NIIGATA PREFECTURE

公募による市民ワークショップを立ち上げて、「地域と深いキズナを持てる森」の実現にむけた検討を進めています!

H20～21年度で検討した「刈谷田川防災公園整備構想」に描かれている「森と散策ゾーン」を中心としたエリアの具体的な整備、活用、管理などの計画をしています。単なる話し合いだけではなく、図面や模型などを使いながら整備イメージを共有したり、公園管理の実態を知るための視察に出かけたりと、色々な方法による検討を進めているところです。

第1回キズナの森づくりWS ※

平成22年8月20日（金）／中之島文化センター
※WS=ワークショップの略

概 要 公募で集まった市民の皆さんの他、新潟県、長岡市、見附市の行政関係者や公園設計の専門家を交えたワークショップを行いました。コーディネーターはNPO法人地域交流センターです。

まず、刈谷田川防災公園の整備状況や今までの検討経過について情報共有を行いました。さらに、このワークショップの課題や目標などを明確にしたうえで検討に入りました。

最初に、参加者の自己紹介とともに、この公園や検討対象の「森と散策ゾーン」についての思いを語ってもらい、その後は自由闊達な意見交換が行われました。

現在の公園の整備構想を見てどう思いましたか?!

◆田んぼばかりの地域に森ができると嬉しい♪
◆子どもと遊べる森（公園）が「地元に」あることが重要。
◆木々の中を散策できる道を歩いてみたい。
◆築山の高さは、そり遊びやジョギングをするにも中途半端な感じでがっかりした。
◆歳を取ってからも気軽に立ち寄れるような場所にしたい。
◆この公園が賑やかになることで、今町と中之島の中心的な存在になってほしい。

経緯の説明やその他疑問や質問はありますか?!

「地域自立活性化交付金」でどこまで整備できるの？

築山や駐車場などに限定されるが増額要求中です（新潟県）

今の計画って、環境に配慮されたものになっているのかな？

やっぱり舗装していない道を散歩したいですね

できるだけ建物をつくらない、広い芝の広場を確保しようという計画になっているはず

舗装すると雨を吸収しないし、地面が熱くなりそうよね！

公園の敷地に傾斜をつけて川に雨水を流そうという計画です（新潟県）

中越と関東とでは、公園管理の実態は違いますか?

関東は緑が貴重なので、ボランティアや寄付が盛んです

道路の付け替えが終わると商店街に人が来なくなるかも…

森づくりのアイデアや提案について自由に発言してください!

●散策道や環境づくり

◆散策道の距離が短いので、変化に富んだ植栽をする。
◆子どもを自由に遊ばせるために、親たちの日陰をつくる。
◆今の整備構想は敷地をぐるっと一周できる散歩コースになっているので、犬の散歩やジョギングが十分楽しめる。
◆この公園の散策道と堤防の道がつながって、川と一体感のあるコースが出来たら良い。

●昆虫が住めるような森にしたい

◆公園の電灯にカブトムシが集まっているかもしれない。
◆平野で木が少ないうえに山も針葉樹ばかり。カブトムシが集まるクヌギなどがほしい。
◆シンプルな森よりも雑木林で虫捕りできるような自然に近い環境が良い。

【専門家のアドバイス】
◆里山の場合は落ち葉を土に返すのが通常。かき集める作業は地域の理解と協力が必要。
◆幼虫が成長する場所を人工的に集約してつくるという方法で公園管理をしている例もある。

今の子ども達はスーパーで虫捕りをする？！

●築山の高さはどれくらい

～仮置きしている土砂は高さ4mくらいです～

4mもいらないという意見

◆底面が広くなって平地の広場が狭くなる。
◆もともと高い堤防の上の敷地だから、さらに高くする必要はないのではないか。
◆この敷地の規模にしては大した高さではないが、隣接の住宅から見える景色が変わってしまうのでは。
◆公園で凧揚げをするとき、あまり高い山ができると風向きに影響が出るのでは。
◆奥行き25m（築山の奥行き50mの半分）に対して高さ4～5mは「山」という印象。「丘」くらいの緩やかなイメージが良い。

4mくらい必要という意見

◆散歩をしながらトレーニングができる。
◆滑ったり、登ったり、自由に走り回れる場所があれば、子ども達の遊び場になる。
◆築山の一部を低くして、一部を4mよりもっと高くすれば良い。
◆冬場はスキーやそりが楽しめるような急斜面がほしい。
◆上新田から見ると4mの丘でも十分かなと思った。基本的に今の構想で良い。
◆道路から見える場所は魅力的なランドマークになるので、ある程度見栄えがする高さでも良いのではないか。

●バーベキュー広場は本当にいるのか?

◆森の近くで火を使うと火事が心配になる。（モラルの問題も）
◆トイレや駐車場、水道設備との兼ね合い、管理人の常駐などを再検討する余地がある。
◆利用の仕方によって、設備の内容が異なる。食のイベントは人を集めやすいし、地元にあると利用しやすい。
◆道具は持参するので管理はさほど大変ではないと思う。
◆防災公園だから炊出しイベントをやりたい。

市民と行政の役割分担で森づくりと維持管理をするべき

●市民参加を実現するには

◆森林の里親制度をつくって、市民がこの森に愛着を持てるような植え方をしたい。
◆宝くじ基金で3種類の桜の苗を100本ほど準備できたので、植樹イベントをしたい。（コーディネーターより）※11月予定
◆桜の名所にするには100本では全然足りないが、一度に沢山の木を植えないほうが良い。
◆市民も出来る範囲で管理すると言っても実際は専門知識が必要ではないか。
◆多くの市民が維持管理にも関わってくれるようにするにはイベント的に植樹や花壇づくりをするのが良い。
◆凧合戦のときの活用も考えていきたい。
◆利用者が楽しくお金を落としていけるようなしくみ（楽しい商売っ気）をつくり、やる方も来る方も楽しい公園ができるように皆で考えていきたい。

【専門家のアドバイス】
◆市民だけで3ha全てを管理するのは不可能。
◆行政と市民とで役割を明快に区分けする必要がある。
◆つくるまでは皆のエネルギーが集中するが、維持管理は永遠に続く気の長い活動である。
◆ソメイヨシノであれば寿命は60年くらい。急激に太くなるが、根が浅いと風で倒れる可能性もある。
◆行政が害虫対策をしている例が多いが、「日本さくらの会」などの団体から樹木医さんを講師として招き、専門的な講習を受けながら市民参加で植樹や維持管理をしている例がある。

第1回のワークショップを終えて総括と印象に残ったこと

●「地域にある森」だから「使われる森」に

「地域に森があること」に期待が膨らむという声が多くありました。たしかに、クルマで行ける公園は周辺地域にいくつかありますが、歩いて行ける場所にほしいという思いのようです。もう行政任せではいけません。計画の段階で、地域住民の主体的な活用や積極的な維持管理への参加が大前提となっていなければ、その後の整備が進まない可能性もあります。このワークショップの参加者の皆さんは、その辺りの意識が非常に高い方が多いように思いました。新潟県が行う基盤整備の関係上、築山のイメージを早期にまとめていくことが課題ですが、今後は活用と維持管理について議論を深めたいと思います。（NPO地域交流センター明石）

「いいやま記念の森」視察研修

平成22年9月4日（土）／長野県飯山市
視察場所：長峰運動公園・常磐桜づつみ・城山公園

概要 市民参加の森づくりの先進事例を勉強するために視察研修を行いました。当日は、ワークショップメンバーに加えて、大勢の地域住民の方々、行政関係者が参加しました。

視察先は、すでに17年目をむかえた「いいやま記念の森」事業を行っている長野県飯山市です。飯山市では、市民の寄付を募って桜の苗を用意し、市民と一緒に植樹をしています。長年に渡る管理の大変さを目の当たりにして、気が引き締まる思いでした。

※飯山市資料より抜粋

「いいやま記念の森」事業とは

21世紀の市民に大きな緑の森を贈ろうと市民や飯山を愛する人々の思い出となる出来事を記念し、市内各所に記念植樹を行っているものです。平成21年度末時点で、累計で1,722本が植樹されました。この事業は平成22年度をもって終了予定です。

市民の寄付に支えられた長峰運動公園の桜の森

●思い思いの記念プレートが印象的でした・・・・・・・

市民の憩いの場になっている公園のあちらこちらに桜の森があります。1本7万円かかる管理のうちの2万円を市民からの寄付でまかなっています。それぞれの木には、夫婦や家族、会社や団体の何かの記念となる思い出がプレートに刻み込まれています。

樹木医さんの指導を受けたそうですが、この公園で植樹をしたころは指導を受けておらず、本来必要な間隔よりも狭い間隔で並んでいました。（桜は最低12mくらいの間隔が必要）

長峰運動公園の桜の森

手探りの状態から始まった行政主体の維持管理

●相当なご苦労をされたようです・・・・・・・・・・・・・・

案内役は飯山市役所の丸山さんです。立派な資料をご用意いただき、私たちを手厚く歓迎してくださいました。よく話を聞いてみると、市民参加は植樹のときだけで、その後の維持管理は市役所のほうで行っているようです。

桜の木は苗からしっかりと根を張るまでの期間の管理が難しく、手探り状態で相当な苦労をされてきたようです。公園の一部は地域の団体に管理を委託しています。市役所が管理する都合上、桜の所有権は市役所にあるそうです。

案内をしてくれた丸山さん

次の世代へ受け継ぐ息の長い活動になることを実感

●その先の維持管理のことがもっとも重要・・・・・・

新たに植樹するのは本年度で終了とのことです。しかし、管理はこの先も永遠と続く活動です。私たちは、そのことを再確認して、森づくりを考えなければならないと思いました。

視察研修のアンケート調査では、多くの参加者が、「刈谷田川防災公園は、もっと市民参加で進めないといけない」、「将来を見据えて計画しないといけない」などと回答していました。この視察で学んだことを有意義に活かしたいと思います。

意見交換会の様子

【事務局】 新潟県長岡地域振興局 地域整備部計画調整課 「キズナの森づくり」担当
〒940-8567 長岡市四郎丸町173番地2 電話：0258−38−2614 FAX：0258−38−2676
【編　集】 NPO法人地域交流センター

新潟県 NIIGATA PREFECTURE

刈谷田川防災公園の詳しい内容はコチラ

長岡地域振興局HP http://www.pref.niigata.lg.jp/nagaoka_seibi/

刈谷田川利活用 検索

このキーワードでインターネット検索してください